

令和6年度地盤工学会関西支部 支部賞受賞者

受賞者名	受賞者所属	業績名	賞の名称	受賞理由
加藤 智大 高井 敦史 勝見 武	京都大学大学院地球環境学堂 京都大学大学院地球環境学堂 京都大学大学院地球環境学堂	鉄鋼スラグで改良した軟弱粘土に含まれる重金属等の溶出挙動の解明	学術賞	本業績は、鉄鋼スラグの地盤改良材としての有効利用を目的に、軟弱粘土と鉄鋼スラグを混合した改良土の改良効果とそれらに含まれる重金属等の溶出挙動を解明したものであり、実現場で採取した沖積粘土と笠岡粘土を対象に検討を行い、スラグの配合量と養生日数の増加に伴う強度増加効果を明らかにするとともに、重金属等の溶出濃度の低減や、供試体が十分に固化する前から不溶化効果が発揮されることなどを明らかにしている。新たな知見として、遊離のカルシウム量が不溶化効果と強度発現に影響を及ぼした可能性に言及しており、合理的で環境負荷の低い建設副産物の有効利用の推進、および地盤工学の発展に大きな貢献が期待できる学術的業績と考え、学術賞に選定した。
原 幸平 小山 倫史 山中 稔 西田 郁乃 富田 和氣夫	関西大学大学院社会安全研究科 関西大学社会安全学部 香川大学創造工学部 石川県金沢城調査研究所 石川県金沢城調査研究所	画像処理による金沢城文化財石垣の崩落石材同定手法の開発	社会貢献賞	本業績は、「2024年能登半島地震」において崩落・崩壊した金沢城文化財石垣の修復において、画像処理技術を用いた崩落石材を同定するシステムを提案している。本システムは、従来の同様のシステムで課題となっていた石材の位置に関する情報が十分に存在しない文化財石垣においても活用できる技術であり、国内の様々な石垣を対象とした幅広い活用が見込まれ、今後の文化財石垣の修復において有用な技術となることが期待される。本研究の成果は石川県金沢城調査研究所にも共有されており、また石材同定以外の地盤工学分野にも適用できる可能性を有していることから、地域・社会への顕著な貢献を収めた取り組みであると認め、社会貢献賞に選定した。
安藤 珠希 小泉 圭吾 久田 裕史 櫻谷 慶治 乾 徹	大阪大学 大阪大学 西日本高速道路株式会社 西日本高速道路株式会社 大阪大学	体積含水率観測データによる検証に基づく雨量情報を用いた高速道路斜面の健全度判定手法の提案	地盤技術賞	本業績は、降雨および体積含水率の観測結果から斜面健全度の指標となる2つの指数 (IQS 指数、FS 指数) の変化が、土壌雨量指数および60分間積算雨量との間に対応関係があることを見出し、それらを斜面危険度の判断基準として用いることで、集中豪雨に起因する表層崩壊が懸念される斜面の健全度を雨量情報から簡易的に推定する手法を提案し、当該手法が適用可能な斜面の特徴を複数の高速道路路面の観測結果から特定している。道路や鉄道路線などには多くの斜面が存在しており、本技術は交通インフラの安全性を向上させることが期待できる技術であると考え、地盤技術賞に選定した。